

大野地区関係年表(縄文～安土桃山) ☆印は大野地区に関する出来事です。

時代	年号	西暦	大野地区 関係	特記事項	
縄文			☆	後野や花房で人々が住み始める	
			☆	右近次郎遺跡など湧水地周辺で人々が住み始める	
弥生			☆	このころ、右近次郎西川遺跡で玉造りが行われる	
古墳			☆	大野盆地北西部を中心に古墳が造られる	
奈良	天平1	729		平城宮出土の木簡に大野の名が見られる	
	天平勝宝1	749		興福寺(奈良市)が越前国丹生・大野・坂井郡の田地を領する	
	天平勝宝2	750	☆	『万葉集』に出てくる「叔羅河の鶺鴒」とは「篠座川の鶺鴒」か?	
平安	元慶5	881		興福寺荘園がひろがる	
	延喜5	905	☆	磐座神社・篠座神社・栴神社・大槻磐座神社・坂門一事神社・風速神社・国生大野神社・高於磐座神社・荒島神社の九社が延喜式に記録されている	
	応徳3	1086		越前守源高実が牛原荘200町余りを醍醐寺円光院に寄進する	
	寛治2	1088		越前守源高実が円光院領牛原荘の縮減をはかる	
				牛原荘の内検帳が作成される	
	寛治4	1090		円光院領牛原荘の東限が大野河となる	
	大治2	1127		僧の永真が大野郡の1ヶ所を藤原成通の政所に寄進する	
	長承1	1132		醍醐寺円光院に牛原荘の四至を応徳3(1086)年の時に戻すよう命令が出る	
	長承2	1133		大野河以西の中夾を円光院領牛原荘とする命令が出る	
	康治1	1142		牛原荘の住人が越前国司藤原惟方が課した人夫役の停止を訴える	
	保元2	1157		黒谷の経塚に経筒や和鏡などを納める	
	安元2	1176		安楽寺院領として大野郡小山荘などの名がみられる	
	養和1	1181		加賀国の賊徒が越前国に乱入し大野・坂井の両郷を焼き払う	
	鎌倉	建保4	1216	☆	大野郡小山荘・泉荘の地頭として北条義時の名が見られる
		寛元4	1246		道元が禅師峰の庵で『正法眼蔵』を著す
弘長1		1261		寂円が大野郡木本郷の銀杏峰で座禅する	
弘安1		1278	☆	大野郡泉荘三ヶ郷について領家と地頭藤原長継が和与中分を行う	
				寂円が宝慶寺を開く	
正応3		1290		この頃、円光院、平泉寺、鎌倉幕府の間に、荘園について争う	
永仁5		1297		大野郡小山荘について、地頭伊自良氏と領家興福寺浄名院が和与中分する	
正和3		1314		義雲が宝慶寺から永平寺に移る	
元弘3		1333		大野郡牛原荘の淡川時治が平泉寺宗徒の攻撃を受け、鞍ヶ淵(赤根川)で自害	
室町 (戦国)	延元3	1338	☆	この頃、美濃にいた堀口氏が大野の居山城に入る	
	延元4	1339		北朝軍が大野郡西方寺城を攻める	
				南朝軍が大野郡などの諸城を攻める	
	嘉吉2	1442		大野郡泉・小山荘を二宮土佐守が任される	
	長祿3	1459		大野郡伊野部郷の名主が、同郷内に乱入した軍勢によって百姓2名が討たれたことを報告	
				小山城に斯波氏の家臣がおり、斯波義廉が在城したことがあった	
	文明7	1475	☆	2月、朝倉孝景の軍が大野郡戌山城の二宮勢を夜襲する 4月、斯波義敏、佐開神明山城から土橋城に入る 7月、朝倉勢 大野井野部・中野に戦い、二宮安兼ら150人を討つ 10月、足利義政、朝倉孝景に命じて土橋要害の斯波義敏の身柄を確保させる 12月、斯波義敏、土橋城を出、次いで上洛する	
	文明13	1481	☆	朝倉氏景、洞雲寺領を安堵する	
	延徳1	1489	☆	慈視院光玖、洞雲寺に大野郡歟懸内得弘名内得を安堵する	
	延徳2	1490	☆	大野郡代慈視院光玖、郡内の土橋道場(旧二宮屋敷)で、斯波義敏・二宮方の亡魂を弔うために真盛を招き、念仏ならびに法談を催す	
	明応3	1494	☆	洞雲寺、本寺領・光玖寄進分の目録を提出する。朝倉貞景、裏判を加えて安堵する	
	永正3	1506		一揆、大野郡に蜂起する	
	大永7	1527	☆	大野郡の洞雲寺洞忻、寺領寄進目録、頓写田目録、隔庵分目録を注進し、安堵を求める 大野郡司朝倉景高、これらに継目裏判を与えて安堵する	
	享徳3	1530	☆	大野郡司朝倉景高、洞雲寺の門前殺生を停止し、違犯の輩の交名を注進させる	
	天文5	1536		大野郡司朝倉景高(右衛門大夫)、穴馬に攻勢をかけ、敵の構えを破る	
	天文23	1554	☆	朝倉義景、洞雲寺の寺領を安堵する	
	永祿1	1558	☆	朝倉義景、洞雲寺の寺内門前殺生を停止する	
	永祿10	1567	☆	朝倉義景、洞雲寺の寺内に陣を居えることを停止させる	
	天正1	1573	☆	朝倉義景が一乗谷から洞雲寺に入り、六坊賢松寺で従兄弟の景鏡の裏切りによって自刃した	
	安土桃山	天正3	1575	☆	金森長近が、大野の領主になった
			☆	金森長近が、鍛冶の新座を停止した	
			☆	金森長近が、越前大野城の普請を始めた	

大野地区関係年表(安土桃山～江戸)

時代	年号	西暦	大野地区 関係	特記事項	
安土桃山	天正14	1586	☆	金森長近が、飛騨を平定し、その領主に任ぜられた	
	天正3	1575	☆	織田信長、一向一揆討伐のため越前に進攻	
			☆	金森長近、織田信長より大野郡の3分の2を与えられる	
			☆	長近、鍛冶座に特権を与える	
				☆	長近、大野城の普請と城下町の建設を始める
	天正14	1586	☆	長近、飛騨国高山に転封	
	文禄1	1592	☆	織田秀雄(信長の孫)、大野5万石の領主となる	
慶長6	1601	☆	福井藩領となる。		
慶長7	1602	☆	土屋正明(松平秀康の家臣)、大野城に入る		
江戸	慶長12	1607	☆	正明、松平秀康に殉死、正明の子忠次が後を継ぐ	
	慶長14	1609	☆	殉死の禁にふれ、忠次徐封される	
			☆	小栗美作、大野城に入る	
	寛永1	1624	☆	松平直政(秀康3男)、大野城に入り5万石を領す	
			☆	松平直基(秀康6男)、勝山城に入り3万石を領す	
			☆	松平直良(秀康7男)、木ノ本1万石の領主となり、木ノ本に陣屋を構える	
	寛永12	1635	☆	直政、松本7万石に転じ、松平直基、勝山より大野に入封 直良、木ノ本より勝山に転じ、木ノ本は廃藩となる	
	正保1	1644	☆	直基、山形8万石に転じ、松平直良、勝山より大野に入封	
	延宝6	1678	☆	直良が大野城に没し、子直明が家督を継ぐ	
	延宝7	1679	☆	『大野城石垣并長屋門破損之覚図』が作成される	
	天和2	1682	☆	直明、明石6万石に転封	
			☆	土井利房、大野城4万石に入封、定書五十六ヶ条を出す	
			☆	この年、城主の変動はようやく終り、藩政も確立	
	天和3	1683	☆	利房、大野城に没し、利治(のちの利知)、2代藩主となる	
	貞享5	1688	☆	『越前国大野城破損修復願絵図』が作成される	
	元禄5	1692		大野郡に美濃郡上藩の領地ができた	
	元禄8	1695	☆	『越前国大野城破損修復之願絵図』が作成される	
	元禄9	1696		大野藩が大坂加番を務める	
	元禄10	1697	☆	城下に十一ヶ条の諭告を出す	
	元禄12	1699	☆	領内に年貢減免の越訴が起こる	
	元禄16	1703	☆	初めて大野藩札を発行する	
	宝永8	1711	☆	『越前国大野城曲輪焼失付修復之願絵図』が作成される	
	正徳1	1711	☆	2月4日、会所から出火。南北の櫓、鳩門を焼失	
	正徳2	1712		領内検地規定二六ヶ条を定める	
	享保5	1720		大野にも鯖江藩領ができる	
	享保17	1732		初めて大庄屋を置く	
	寛保3	1743	☆	土井利寛(3代)、家督を継ぐ	
	延享3	1746	☆	土井利貞(4代)、家督を継ぐ	
	寛延1	1748	☆	本願清水の乱用を禁ずる	
	寛延2	1749		六呂師、上谷野秣場争論で幕府の裁許が出る	
	明和8	1771		凶作、ききん起こる	
	安永2	1773	☆	専売制の会所を設ける	
	安永3	1774		大雨で真名川、清滝川の堤防が決壊し、大洪水となる	
安永4	1775	☆	野口村から出火、城下1400戸を焼く大火となり、大野城にも飛火して天守閣など焼失御本丸、煙硝蔵、穴蔵、会所、長屋、御作事、観性院様御屋敷、三之丸。鳩門は不難		
安永9	1780	☆	大野町に大火		
天明3	1783	☆	大野郡内大飢饉。米の領外輸送を禁止		
天明7	1787		西山村でうちこわしがあり、菖蒲池川原にも人が集まり、郡内が騒然とする		
寛政1	1789	☆	寺町蓮光寺から出火。町の大半が焼失		
		☆	佐開の鬼谷が崩れ、土石流が真名川に流入。大井用水なども決壊して大災害となった		
寛政3	1791		幕府から5000両借りて、面谷鉱山を藩経営とし、水抜き工事を始めた。面谷銅山で新鉱脈を発見		
寛政6	1794	☆	『越前大野城本丸造営御用覚』が作成される		
寛政7	1795	☆	大野城の本丸が再建		
		☆	堀兼用水と大井用水組が、堰をめぐる激しく争う		
文化2	1805	☆	土井利義(5代)家督を継ぐ。7月27日、堀を浚渫		
文化4	1807		塚原野、栗原野で約50町歩を開田		
文化5	1808		下山村で雪崩が起こり、多くの死者が出る		
		☆	藩主利義の隠居をめぐる一揆が起こる		
文化7	1810	☆	土井利器(6代)家督を継ぐ。初めて消防組を設ける		

大野地区関係年表(江戸)

時代	年号	西暦	大野地区 関係	特記事項
江戸	文化7	1810	☆	『越前国大野城破損之覚絵図』が作成される
	文化8	1811	☆	利器公入部
	文政1	1818	☆	土井利忠、第7代の藩主になる
	文政3	1820		『越前国大野之図』
	文政5	1822	☆	野口村から出火(長四郎火事)。大火となる。城内は影響無し
	文政6	1823	☆	しばしば火災を起こした野口村に屋敷替えを命じる
	文政10	1827	☆	二の丸、三の丸住居が焼失。このころ、大野城下にたびたび大火が起こる
	文政11	1828	☆	『越前大野城焼失二付普請并石垣修復之覚』が作成される
	天保3	1832	☆	面谷銅山の経営を刷新。防火のため、一番町西側に石堤を築いた
	天保13	1842	☆	土井利忠、藩政改革を開始、多くの人材を登用
	天保14	1843	☆	「学校創設の令」、藩校を創設
	弘化1	1844	☆	藩校を、明倫館と称す
	弘化2	1845	☆	洋医学を採用
			☆	高島流砲術を採用
			☆	下曾根金三郎に洋式大砲を鑄造させる
	弘化3	1846	☆	新田野で野戦砲の試討を行う
	嘉永2	1849	☆	堺から職人を招き領内で鉄砲を鑄造
			☆	土田玄意(滝湾)が藩の命令をうけて、種痘の研究のため、長崎で学ぶ
			☆	土田滝湾が蘭書を購入して帰り、蘭学を教える
	嘉永3	1850	☆	大野藩が大砲をつくる
	嘉永4	1851	☆	種痘の施術所を城下一番町で開設
	嘉永6	1853	☆	佐久間象山に学び、大砲を購入
			☆	吉田拙蔵が蘭学専修のために、杉田成郷に入門
			☆	横田権蔵が、昌平校の安井・塩谷に入門
			☆	内山隆佐が、佐久間象山に入門
	安政1	1854	☆	小児に対して強制種痘を命じる
			☆	洋陣法により新田野で大演習を行う
			☆	このころ藩内に蘭学熱が盛り上がる
			☆	「海上砲術全書」「海上砲具全図」を出版
	安政2	1855	☆	大坂北久太郎町に大野屋を開店、たばこなど大野の物産を販売
☆			蝦夷地の開拓を決定し、幕府に伺書を出す	
☆			適塾の高弟 伊藤慎蔵を蘭学教授に招く	
安政3	1856	☆	蝦夷地用懸を置き、蝦夷地の探検を実施	
		☆	洋学館を開設	
		☆	西川貫蔵の翻訳書「三兵用訣精論」が完成	
		☆	蘭学修業のため全国各地から大野藩洋学館に入学するものが増えてくる	
安政4	1857	☆	箱館に大野屋を開く	
		☆	大野屋の総本店として大坂屋を城下に開店	
		☆	済生館(病院)を一番町に開設	
		☆	北蝦夷地屯田を決定、まず探検を実施	
安政5	1858	☆	幕府、北蝦夷地屯田を許可	
		☆	洋式藩船「大野丸」が竣工	
安政6	1859	☆	西川貫蔵の翻訳書「坑卒袖珍」が完成	
		☆	大野丸、敦賀を母港として初航海	
		☆	北蝦夷地屯田兵、大野丸に乗り込み出発	
		☆	大野丸、奥尻島で米国の難破船を救助	
万延1	1860	☆	幕府、北蝦夷地の一部を大野藩の準領地として決定	
		☆	このころ演武場が完成する	
文久2	1862	☆	藩主利忠が引退、8代利恒 後を継ぐ	
元治1	1864		内山隆佐、没す	
		☆	大野丸、根室沖で沈没	
元治2	1866	☆	水戸天狗党が大野藩領を通過	
			上野国から座繰機を買い入れ製糸業を振興	
明治	明治1	1868	☆	戊辰戦争に出兵
			☆	新政府の命により箱館戦争に出兵
	明治2	1869		利忠が没す
	明治4	1871	☆	北蝦夷地を新政府に上地、人員を引き揚げる
	明治5	1872	☆	廃藩置県で大野県となる
			☆	大野城が払い下げられた